

研究会誌『日タイ言語文化研究』投稿規程 (タイ側)

『日タイ言語文化研究』は日本、タイで日本語教育、タイ語教育など学術研究活動に関わる研究者、教員の相互交流の場として、新たな知見を内外に発信していく年刊学術誌です。

【投稿規程】

投稿資格	日本語教育、タイ語教育、言語学、言語文化、文学等の学問分野を対象とする研究・教育に従事する者で、当研究会 (タイ側) の会員であること。大学院生の場合、指導教官からの推薦を必須とする。(様式 C 参照) 本会の研究発表会における口頭発表を原則とする。
ジャンル	言語学、言語教育、文化、文学 (日本語、タイ語に関するもの)
カテゴリー (原稿枚数)	1. 研究論文 (10~15 枚) 2. 実践報告 (10~12 枚) 3. 調査報告 (10~12 枚) 4. 研究ノート・資料 (7 枚) 枚数の上・下限については編集委員会に相談すること。
使用言語	日本語、タイ語 (ただし、日本語の論文を推奨)
提出方法	様式 A (投稿申込書)、様式 B (投稿論文チェックリスト)、下記の体裁に従った WORD ファイルと PDF ファイル原稿の両方を E メールで提出 * 大学院生は様式 C (推薦状) も提出 * 様式 A、B、C は WORD ファイルのみ提出
提出先	ijtlc.thai@gmail.com
申込締切	当研究会タイ側 HP (http://spujapanese.jimdo.com/ijtlc/) に掲載
採択審査	審査結果は<採用>・<条件付採用 (書き直し)>・<不採用>の 3 段階で通知する。
採択基準	1. 論文・報告書としてテーマや内容が有意義か 2. オリジナリティーが認められるか 3. 論旨に一貫性があるか 4. 論文・報告書として適切な構成であるか 5. 先行研究を踏まえているか
	・原稿は応募時点で未発表のものであること。(他所での掲載審査中のものは認められない。)

諸注意	<ul style="list-style-type: none"> ・非日本語母語話者で日本語の論文を提出する場合、日本語のネイティブチェックを受けておくことを条件とする。 ・本誌に掲載された論文等の著作権は、日タイ言語文化研究会に帰属する。
-----	--

【書式】

- ・原稿 MS-Word により作成する。(横書き)
- ・用紙サイズ A4 版で、上下左右 25mm の余白を取る。
- ・枚数 投稿規定にあるカテゴリー別の枚数に従う。(注、文献書誌、写真、図表等も含む。ただし、表紙(要旨)は含まない。)
- ・フォント 日本語「MS 明朝」、英数字「Times New Roman」、タイ語「Cordia New」
ただし、節番号と節タイトルはボールド体で「MS P ゴシック」
- ・文字サイズ 要旨、キーワード：日本語・英数字 10 ポイント、タイ語 14 ポイント
本文：日本語・英数字 10.5 ポイント、タイ語 14 ポイント
参考文献：日本語・英数字 10 ポイント、タイ語 14 ポイント
- ・文字数・行数 日本語原稿は文字数 40 字、行数 35 行。タイ語原稿は 65 ストローク 35 行。
- ・写真 印刷に不都合のない状態のものを Word 文書に貼り付ける。
- ・注記 本文末にまとめる。(脚注にしない。) フォントは 10 ポイント
- ・頁数 原稿に記入しない。(編集段階にて記入する。)
- ・引用 日本語原稿の場合、英語以外の外国語の引用には和訳か英訳を付ける。(引用文がタイ語の場合も和訳か英訳を付記する。)
タイ語原稿の場合、英語以外の外国語の引用にはタイ語訳か英訳を付ける。
(引用文が日本語の場合もタイ語訳か英訳を付記する。)

【体裁】

1 頁目		
(1)	カテゴリー 表題	① 投稿原稿のカテゴリー ② 表題 (副題を含む) ③ 表題 (副題を含む) の英文訳
(2)	要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語 (400 字程度)、タイ語 (10 行程度)、英語 (200 語程度) ・原稿が日本語の場合、日本語及び英語の要旨、タイ語の場合、タイ語及び英語の要旨を付ける。研究・資料ノートは、要旨を必要としない。
(3)	キーワード	3~5 語

2 頁目以降		
(4)	論文本体	<ul style="list-style-type: none"> ・節タイトルから始め、以下本文と続ける。匿名で査読を行うので、<u>論文本体には執筆者名、所属機関名は書かないこととする。</u> ・タイ語やその他の外国語の例文は以下の 3 行で示す。(1 行目: 例文、2 行目: グロス、3 行目 日本語訳) また、使用する略語は別途表記すること。
(5)	注	<ul style="list-style-type: none"> ・注は通し番号を付け、本文末に記す。注番号は「上付き」で¹とする。
(6)	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、または注で引用、及び言及されたものを本文末（注がある場合は注の後）に以下のいずれかの形式でまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> a. 参考文献全て（日本語、英語を含むその他の外国語）を著者のアルファベット順で並べる。 b. 参考文献を日本語、英語（欧語）、タイ語に分けて、五十音順、アルファベット順、กข 順に並べる。 ・参考文献のフォントサイズは 10 ポイントとする。 ・著（編）者名、発行年、論文名、頁等を以下のように記す。 (参考文献の書き方はテンプレート参照) [雑誌論文] 著者名・複数著者の場合他の著者名 (発行年). 「論文名」『雑誌名』巻数 (号数), 頁数. [論集などの論文] 著者名・複数著者の場合他の著者名 (発行年). 「論文名」 編者名 (編) 『論集名』 (pp. 頁数). 出版社. [単行本] 著者名・複数著者の場合他の著者名 (発行年). 『書名』 (必要であれば) 版, (該当する場合) シリーズのタイトルと巻号, 出版社. [学位論文] 著者名 (提出年). 『論文名』 学位論文の種類, 大学名.

附則：本規程は 2014 年 6 月 1 日より施行される。

